

袋井市教育委員会 会議録（要旨）

会 議 名	令和 7 年 8 月 袋井市教育委員会 定例会
招 集 日 時	令和 7 年 8 月 28 日 (木) 午後 1 時 30 分
会 議 時 間	午後 1 時 27 分から午後 3 時 40 分まで（2 時間 13 分）
場 所	袋井市 3 階 ICT 研修室
出 席 者	鈴木一吉 教育長 鈴木万里子 委員 溝口知秀 委員 吉田陽子 委員 山本茂広 委員 (計：5 人)
傍 聴 者	無し
当局出席者	石黒克明 教育部長 小澤一則 教育監 山岡ゆかり 教育企画課長 戸塚建司 おいしい給食課長 荒浪 健 教育保育課長 田中 慎 学校教育課長 中村悟史 魅力ある部活動推進室長 中村聡志 生涯学習課長 小久江暁子 袋井図書館長 白澤 崇 歴史文化館長 渡邊規恵 教育企画課課長補佐 廣岡真理 教育企画課教育総務係長 (計：12 人) (合計：17 人)
会議に付した 事 件	別紙「令和 7 年 8 月 袋井市教育委員会定例会 議事日程」の とおり

令和 7 年 8 月 袋井市教育委員会定例会 日程

日時：令和 7 年 8 月 28 日 (木)
午後 1 時 30 分開会
場所：袋井市教育会館 3 階 ICT 研修室

会 議 日 程

- 日程第 1 開 会
- 日程第 2 会議録署名委員の指名
- 日程第 3 会議録の承認
- 日程第 4 教育長報告
- 日程第 5 教育部月例事業報告
- 日程第 6 議 事（会議に付すべき事件）

（１）協議事項

- 協第 14 号 令和 7 年度 9 月一般会計補正予算について
- 協第 15 号 袋井市立幼稚園の教育・保育環境のあり方検討（案）について
- 協第 16 号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書
（令和 6 年度）
- 協第 17 号 令和 7 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

（２）報告事項

- 報第 83 号 令和 6 年度における指定管理者の管理運営に対する評価について （月
見の里学遊館ほか 1 施設）
- 報第 84 号 令和 6 年度における指定管理者の管理運営に対する評価について （メ
ロープラザ）
- 報第 85 号 令和 6 年度 袋井市立図書館の利用に関するアンケート結果報告について
- 報第 86 号 防火管理者の解任又は任命について
- 報第 87 号 浅羽支所の改修及び袋井市こども交流館あそびの杜の今後の整備方針に
ついて

日程第 7 意見交換 架け橋プログラムと幼児教育の学び強化事業について

日程第 8 その他

（１）連絡事項

- ア 令和7年度 中学生等学術交流事業（プログラミング教室）の実施について
- イ 令和7年度 コミセンdeお理工塾の実施について
- ウ 静岡理工科大学連携事業 「いろ色deコラージュ」ワークショップについて

(2) 次回定例会等の予定について

9月教育委員会定例会

令和7年9月26日（金） 午後1時30分 教育会館3階 ICT研修室

(3) その他

日程第8 閉 会

1 開会

●教育長

2 会議録署名委員の指名

●教育長

鈴木委員と溝口委員 を指名

3 会議録の承認

●教育長

8月の定例会の会議録については、承認

4 教育長報告

●教育長

資料にて確認

5 教育部月例事業報告

●各課長

資料にて確認

6 議事

●教育長

協議事項について、事務局から説明をお願いします

【協議事項】

協第14号 令和7年度9月一般会計補正予算について

- 教育保育課長
資料に基づき説明

[質疑・意見（要旨）]
なし

協第15号 袋井市立幼稚園の教育・保育環境のあり方検討（案）について

- 教育保育課長
資料に基づき説明

- 吉田委員

もうすぐ入園の募集が始まると思うのですが、この地域の方々には、再編することや具体的なチラシを配ったりしてお知らせはしていますか？

- 教育保育課長

今のところ、活用地域については2回目の説明のときに、A案で検討していくことを説明しています。

- 吉田委員

入園するお子さんをお持ちの家庭には、ちゃんと行き届いているのか心配です。「こんなことになっているの？」となった場合、保護者としては戸惑うと思うので、その辺の説明をしっかりとっていただきたいと思います。

- 教育保育課長

公立幼稚園の体験入園に来るお子さんについては、例年ですと、入園に繋がる人が多いです。関係する御家庭につきましては、また、議会等で説明が固まってまいりましたら、しっかりとお伝えしていきたいと思います。

- 吉田委員

可能性があるようなことは、早めにお伝えしたほうがいいと思います。

- 山本委員

今の話で、幼稚園を一緒にしてもまた小学校へ行くときにバラバラになってしまうんですね。それってどうでしょうかね。流れとしては、みんな一緒に小学校へ行く方がいいと思いますが。

- 鈴木委員

今ほとんど1園から通う子供たちはいないのではないのでしょうか。

●山本委員

そういうのは関係ないのですか？

●小澤教育監

今、袋井北小学校では、20か所以上から来ていますので、その点は関係ないと感じています。

●教育長

今の時代だと、保育園は全市1区ですので、どこの保育園へも通えるようになるので1つの幼稚園から同じ小学校に行くということは一部あるかもしれませんが、もう多くの子供たちは保育園に行っているので、その学区の園からではなく、他の学区からくる子供が多いので、そういう状況を踏まえても袋井市は幼小中一貫教育を進めているので、その中で何ができるかっていうことを考えたほうが、現実的だと思います。

●山本委員

逆にその施設を整えて、そこへ来てくれる子供たちがいて、尚且つ、空いた幼稚園を活用していくほうが、市としては有効ということでしょうか。

●教育長

それを考えると、子供たちの教育保育環境を一番良い形で維持していくべきだと思います。一番大切なのは子供たちの教育保育の環境を快適に整えることで、それをしっかり続けていきたいと思います。

結果として、市とすれば、運営費が浮いたり、人員が削減できたりすることはあるかと思いますが、それが目的ではないですね。

どこまでいっても子供たちの教育保育の環境を整えたいということです。

●溝口委員

皆さんが話し合ってくれたおかげで、方向が見えてきたので、ここをうまく運営してほしいです。ただ、統合しても、実際には約60人になるというのが心配です。

今の状況で、臨時に保護者の意見を聞いていた結果、意外と否定的な意見が出ていないのは良いことですが、中には本当に統合して遠くなるのだったら、幼稚園に通うことを考え直すかもしれないという意見が出てこないかということと、今後の子どもたちの動向、出生率なども考えた時に、この状態を何年やっていくのか？ずっと続けていけそうかっていうその辺の見込みって、どんな感じなんでしょうか。

●教育保育課長

子供たちの教育保育についてですけれども、約5年間の計画を立てており、令和11年頃には、保育所に行く割合が7割、幼稚園に行くのが3割になる見込みです。

計画を作成するにあたり、保護者にニーズ調査を行った結果、幼稚園のニーズを求めている方が約35%程度存在することが分かりました。この状況を考えると、今後5年間については3割程度の利用が見込まれると考えています。

●溝口委員

難しいですが、子供たちの教育環境というのは非常に大事であり、この状況をしっかり見守って進めていかなければなりません。

何年後かにはまた再編の必要性を考えなければならないとも思いますし、進めることは全く問題ないと思っていますので長期的に見ていく必要があります。

●教育保育課長

公立幼稚園を選んでいる保護者の方は、その役割や教育保育の考え方に共感している方が多いですので、そういった良さを伝えていく必要があります。

市としては多様な選択肢を持ち、保護者がそれぞれのニーズに応じて教育保育を選択できるようにしていきたいと思っています。

●教育長

近くに幼稚園がなくなれば、保育所を選ぶという意見も出てきています。

保護者の選択に任せることが大事ですが、幼稚園も選択できるようにしなければなりません。預かり保育をもっと長く実施すれば幼稚園を選ぶ方も増えると思います。

袋井市の教育について高く評価してくださっている方もいらっしゃるので、幼稚園をどう整備していくかは非常に重要だと考えております。

実際、去年の出生数は袋井市で550人程度で、数年前には1000人を超えていたので、確実に減少している状況です。この影響で、今後の幼稚園や保育所利用の減少を考える必要があります。そうする中で幼稚園の役割も見直さなければならないことがあります。

ただ、幼稚園の拠点として残す意義はあるので、公立幼稚園の存在を維持するという判断をしております。

しかし、数が少なくなっているため、別の再編を考えなければならない時が来るかもしれないかもしれません。

この段階ではこういう案で進めていくことになりましたが、先ほどの検討会でも皆さんから意見をいただいて、ある程度、認知されている状態にあると感じました。

ただ、幼稚園の保護者の方がメンバーとしても入ってもらっていましたが、その保護者の方は統合されても何のメリットもありません、とおっしゃっていました。ほかの委員からは、どっちかに統合という話になっているとすれば、やっぱりそれでも地域がまとまってよかったね。とかこういう環境になってよかったね、ということ、みんなで考えていきたいと思いますという意見も出ていました。

教育保育の職員が非常に頑張ってくれて、地元で2回ほど説明に行っていて、話を続けてきてくれたので、幼稚園の再編そのものについては、ある程度認知は行ってるかなというふうに思っています。ただ具体的な場所の決定後には、ハレーションが生じる可能性もあります。しっかりと進めていく必要があると考えています。

●鈴木委員

再編はとても難しいことだと感じています。地域の思いと保護者の思いが異なる中で、具体案が出てきた際に保護者がどう考えるのか、地域の思いがどう表れるのかが重要だと思います。

ます。子供が少なくなっていく中で、送り迎えする保護者がどうするのかという問題も出てきます。最終的には、保護者の考えをしっかりと汲み取ることが大切だと思います。

●教育長

ありがとうございます。

●吉田委員

袋井東幼稚園で外国籍の児童が多いことを考えると、送迎が難しい場合に支援が必要になるかもしれません。

●教育保育課長

そうですね、その問題についても話を進めていく必要があります。

協第16号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書(令和6年度)

●教育企画課長

資料に基づき説明

●教育長

御質問や御意見がありましたらお願いいたします。

●吉田委員

質問というか意向の確認です。社会教育の分野で松永先生の27ページにある市民の学び合い、地域づくりへの支援についての課題についてですが、参加人数のみに依存することへの疑問があります。

私も感じており、結局参加人数が指標になっていると思うのですが、こういった評価を受けてその考えを変えるようなことは考えていらっしゃるのでしょうか。

●生涯学習課長

生涯学習課です。委員ご指摘のとおり、参加者数が全てではないと思っていますが、参加された方々がどう感じたかの評価ができていない状況もあります。

これは第三次総合計画で、いかに学びの場を提供できたかを評価していく予定であります。

●教育長

指標というのは一面だと思っていますが、全ての取り組みを反映できるわけではないので、そこが難しいところだと思います。数値で進行管理しやすいですが、すべての取り組みを反映する必要があるというのはなかなかできない部分もあるかと思っています。

●溝口委員

先ほど3人の方が言ってくれたように、指標は重要ですが、本当にやるべきことは何かを見極めなければなりません。数値の目標に縛られるのではなく、何をしなければならないかをしっかり考えて進めていけばいいですね。

●教育長

ありがとうございます。

これについては今度議会へ報告する形になりますので、教育委員会としては成案とし、公表していく段取りをとっています。よろしくお願いします。

協第16号 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

●学校教育課長

資料に基づき説明

●吉田委員

4ページに無回答率が小学校で10%と中学校で16%とありますが、市中学校の方が無回答率が多いのですね。ただ全国と比べると、小学校の無回答率10%とはいえ、全国と比べると改善がもっと必要ではないかと思いますが。

●学校教育課長

そうですね。問題の難しさなどもありますし、グラフはそういったことを比較する意味で作成してくれたと思います。

●吉田委員

今、中学校3年生の子が小学校6年生のときに受けた全国学力調査の無回答率と比較してみると、経年で減ってきていることが分かると思いますがそういった分析はどうでしょうか。

●学校教育課長

はい、私は資料を持っていないのですが、教育委員会の方では資料があるので比較していきたいと思います

●吉田委員

今まで課題として挙げられている自分の考えをまとめて出すというのは、ずっと言われてきたことですね。成果が上がっていない理由が疑問ですし、袋井型授業での改善が必要なのではないでしょうか。

●学校教育課長

無回答率の課題について、授業改善を進めながら、生徒が自分の考えをまとめて発表できる機会を設けるといって授業を繰り返して行っていますが、無回答率が下がるかどうかはまた考えていかなければならないと思います。前回の資料にあったように、小学校で無回答率がゼロの学校があることもあるので、改善に向けての動きも見受けられます。ただし、まだまだ課題が残っています。

●鈴木委員

無回答率について、もっと細かく分析することが必要だと感じています。時間が足りない部分もあるかもしれませんが、問題の理解ができていないことも影響しているかもしれません。子供たちが問題の意図を理解できていない場合もありますので、その部分をきちんと考える必要があると思います。

●学校教育課長

おっしゃるとおりです。無回答の理由として、問題の理解不足や考えをまとめられないことがあると思います。分析を進める必要があると考えています。

●溝口委員

さっき吉田委員が言ったように、毎回結果を聞くと傾向が同じで無回答率が高い状況が続いています。袋井型の授業についても、本当に改善が見られているのか疑問に感じています。それと、教員の力量の向上についても考えなければなりません。子供たちが成長しない理由は、教え方に問題があるのではないかと感じることもあります。これからの進化や改善が求められると思います。

●学校教育課長

無回答率についても毎年話題になると思いますが、結果が必ずしも悪化しているわけではありません。今年度の中学校の結果は、全国的にも良い結果が出ました。これも授業の成果の一つです。しかし、授業の質については、改めて見直す必要があると思いますし、訪問を通じて確認していきます。学校内でも、職員同士が授業を見ながら改善に取り組むことが重要です。教員の育成にも力を入れていく必要があると感じています。

●溝口委員

無回答率を減らすためには、子供たちが自分の考えを持って表現できるようにサポートする必要があると思います。

●鈴木委員

問題を解く力を育成するためには、教員がその能力を引き出してあげることが大切です。全国学力調査の問題は、書いてあることを理解すれば回答できるもので、正しく読み解く力が求められています。

複数の資料を基に考えて答えを導き出すことが求められる問題が多く、これを繰り返す中で学力調査の回答率が向上することに期待します。

●学校教育課長

結果として無回答率をゼロにするという目標ではなく、子供たちが自分の考えを持ち、その考えをしっかりとアウトプットできるように育てていくことが重要だと考えています。

●鈴木委員

袋井型授業について、私たちも訪問させていただく中で、課題にしっかり焦点を当てていることが見えます。しかし、課長がおっしゃったように、さまざまな情報を基に課題に沿った考えをまとめることができているかどうか重要です。それを子供にやらせているかどうかは鍵となります。

教師が前面に出ているのではなく、子供たち自身が自らの力で取り組む姿勢が求められています。教師は黒子のような存在として、子供たちをサポートする役割に徹するべきだと思います。そうした授業が実現すれば、袋井型のアプローチも進化していくと思います。そのために教師の力量をつける必要があると感じています。学校訪問を通じてその点を目の当たりにしています。

●山本委員

課長が言ったことは非常に重要だと思います。エンジニアの方々が答えのない問いに取り組んでいるように、子供たちもさまざまな問題に対するアプローチを学ぶ必要があります。結果が悪かったとしても、それを通じて子供たちが成長できる環境を作ることが大切です。

●学校教育課長

正答率にばかりこだわっているのではなく、むしろ無回答率に注目していることが重要だと思います。答えが分からないことに出くわすことは、これからの子供たちにとって大切な経験です。

●山本委員

まさにその通りです。子供たちが自分で考え、導き出すことが何よりも重要です。

●教育長

なぜこのような取り組みをしているかという、この取り組みを通じて、子供たちに考える力を付けさせることが目標です。社会に出れば、自分自身で答えを見つけなければならないからです。誰もが正解を教えてくれるわけではないですからね。

様々な情報や環境から、自分自身で考え行動する力を育てることが、まさに生きる力だと考えています。これに基づいて、授業を通じて力をつけさせていきたいと思っています。無回答率の改善に注力することが大切ですが、一般の教員にその意図がどれだけ浸透しているのかは疑問です。校長先生方には繰り返し伝えていますが、現場の教員と話をすると、無回答率に注目しているという認識が薄いと感じました。これは反省すべき点です。現場の先生

方にどれだけ認識を浸透させられるかが重要だと思います。しかし、教育委員会が直接影響を与えることができる立場ではないため、課題は多いです。

教員は一般的に真面目に頑張っていますが、まだまだ魅力に欠ける授業が多いのも事実です。教育現場が個々の能力に依存している部分が多く、組織としての力が不足していると感じています。そのため、組織全体として授業力を向上させる取り組みが必要です。不公平のない教育を提供するためには、組織の力を高めていくことが重要です。

授業の質を評価し、改善する取り組みも必要だと思いますし、研修を通じての能力向上も必須かと思っています。しかし、実際にはまだまだ課題が残っていると感じます。

中学校の正答率が高いのは静岡県全体の傾向でもありますので、そこは十分理解しています。しかし、小学校で無回答率ゼロの問題があるということは、一歩前進していると言えるでしょう。学校訪問の際は、気づいた点を指摘してあげることが大切だと思います。組織としての対応として、この点を強調しておきたいです。

●吉田委員

教え方を改良して、子供たちにもっと考えさせるべきです。

●溝口委員

袋井型授業の教育に関する手引きや冊子で、現在いただけるものはありますか？
先生方がどのように進めるべきかを示したものを見てみたいのですが。

●学校教育課長

学習課題を提示し、最終的なまとめやアウトプットの方法について具体的な手段が示されたものがあるか確認してみます。

●山本委員

今後学校訪問の際に、そうした観点からのチェックを行ったほうが良いのでしょうか？

●教育長

是非そうしてください。

管理職はマネジメントを通じて授業づくりに取り組む必要があります。教員各個人の育成にも力を入れなければなりません、同時に全体としての授業力を向上させていくことも重要です。

学校における授業は一人での勝負になりがちな部分があるため、組織としての協力が求められます。個人の能力を引き出すための支援が重要です。

●鈴木委員

学校訪問時に、先生方が他の教員がどのように授業しているかわからないという意見をよく話に出てきます。授業力向上研修会に参加できないこともあるため、どう指導しているかをお互いに見せ合い、切磋琢磨していくことが確認できれば、訪問の中でさらに良い方向に進めるのではないかと思います。

●山本委員

子どもたちが帰ってから教員だけで研修なども行っているのですか？

●学校教育課長

行っています。年間の計画に従って各学校で月一回の校内研修が行われています。その中で授業を進める中で、従来の振り返りをしながら、状況を確認する機会を持つことが重要です。教育委員の方々が訪問している際には、校長先生からどのように授業を進めているかを尋ねていただきたいと思います。お互いに授業を見合う習慣を作る学校も増えており、1学期ごとに各自の授業を振り返っている学校もあります。

●教育長

よろしいですか。ありがとうございます。それでは、これを踏まえまして、引き続き授業力向上に取り組んでいきましょう。以上で協議事項は終了します。

【報告事項】

報第83号 令和6年度における指定管理者の管理運営に対する評価について (月見の里学遊館ほか1施設)

報第84号 令和6年度における指定管理者の管理運営に対する評価について (メロープラザ)

●生涯学習課長

資料に基づき説明

[質疑・意見(要旨)]

なし

報第85号 令和6年度 袋井市立図書館の利用に関するアンケート結果報告について

●図書館長

資料に基づき説明

●溝口委員

結果において多くの方々が満足されているというのは素晴らしいことです。ただ、図書館の利用人数は毎年どうなっていますか？増減の傾向について教えてください。

●図書館長

貸出数は少し減少傾向ですが、利用者数はほぼ変わらず微増しています。毎日来館される方も多いです。

●溝口委員

来館者数は別扱いで、通常の利用者数には含まれていないと思います。来館者は少し減っている一方で、利用者が増えているという状況です。

報第86号 防火管理者の解任又は任命について

●図書館長

資料に基づき説明

[質疑・意見（要旨）]

なし

報第87号 浅羽支所の改修及び袋井市こども交流館あそびの杜の今後の整備方針について

●生涯学習課長

資料に基づき説明

●山本委員

中性化の工法はいくつかあると思うが、どのようなものがあるのか？~~うか？~~

●生涯学習課長

中性化の工法については、現在、発注している設計業者から、様々な提案をいただいておりますが、経費や強度の関係、継続的な対応が必要となるかどうかというところも含めて、どの方法が最適かを考えなければいけないと考えております。

●吉田委員

やっぱり市民からの声も大事ですし、あそびの杜の必要性の議論においては、財源の確保の面から見てもしが求められるかもしれません。市が負担する中で、どれだけの収入が見込まれるかも検討が必要ですね。

●教育長

基本的に手続きもしてきて議会でも承認をいただいている中で、私たちとしては子供たちのため、子育て世代のためにできるだけいいものを創りましょうということは市長も言って

おりますし、限られた資源の中で、どのように実現できるかを常に考えていかなければいけないと思っています。

●吉田委員

例えば、企業からお金をいただくとか、市民から寄付をいただくとかそういったやり方で財源を確保できないのですか。

●教育長

企業の方や、市民の方が寄附してくださるということであれば、それは否定する理由は何もないですし選択肢としてはあるでしょう。

今のところは、国庫の状況や起債をどうするかというのは考えていかななくてはならないと思います。中性化対策については、どんな施設にしても課題となりますので、必要経費として確保していかなければいけないと思っています。

このまちをどうしていくかということに大きく関わってきていて、浅羽支所周辺の地域は地域拠点としてにぎわいづくりの核として考えていますので、支所を無くすということは考えておりません。

●山本委員

浅羽地域に公的機能を残すことは重要だと思います。もう少し時間をかけて施設整備していくことは難しいでしょうか。

●教育長

国庫補助の制度としていろいろありますが、現段階においては、5年計画となっていますので国のルールに従いながら計画を進めていく必要があると思います。

このような状況においても、楽しんでこの仕事に取り組んでいくことが私たちの責任だと考えております。市民のためになる施設をつくることに力を注いでまいります。

7 意見交換

架け橋プログラムと幼児教育の学び強化事業について

発表者：未来の教育推進室長 平野室長

8 その他

(1) 連絡事項

ア 令和7年度 中学生等学術交流事業（プログラミング教室）の実施について

イ 令和7年度 コミセンdeお理工塾の実施について

ウ 静岡理工科大学連携事業 「いろ色deコラージュ」ワークショップについて

(2) 次回定例会等の予定について

9月教育委員会定例会

令和7年9月26日(金) 午後1時30分 教育会館3階 ICT研修室
(午後3時40分閉会)

9 閉 会